

現代日本語の会話における「で」のフィラー的な使用について

Filler Usage of 'De' in Modern Japanese Conversation

劉 洋

LIU YANG

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要

第60号 2025年12月 括刷

Journal of Humanities and Social Sciences

Okayama University Vol.60 2025

現代日本語の会話における「で」のフィラー的な使用について

劉 洋*

1. はじめに

現代日本語においては、「で」という接続詞が前後文脈の関係を示す機能を超えて、談話の構成に積極的に働いているケースが多く見られる（詳細は劉：2023を参照されたい）。このようなケースでは、「で」が従来有していた接続詞としての「結びつける」「関係を示す」「方向を示す」といった機能は、表面的には見えにくくなっている。高橋（2001）は、「で」が抽象的なレベルで用いられる傾向を指摘しており、さらに小出（2008）および中島（2011）は、「で」がフィラー的な用法を獲得していると述べている。しかしながら、これらの先行研究においては、具体的にどのような「で」がフィラーとして機能するのかについては詳細な言及がなされていない。そこで本研究では、このフィラー的性格を帯びた「で」に焦点を当て、その実態について考察を深めたい。

本研究は次のように構成される。2節で先行研究とその問題点を述べる。3節で「で」の出現位置を考察したうえで、4節で「で」の用法の検討から、接続詞かフィラーかを論じる。5節で本研究の結論を述べる。

2. 先行研究とその問題点

接続詞「で」のフィラー的な使用に言及した先行研究としては、小出（2008）、中島（2011）、百瀬（2018）が挙げられる。このうち小出（2008）は、「で」の機能を対話と独話に分けて考察し、特に独話における「で」がフィラー化している傾向を指摘している。

対話：目下の話題や文脈に区切りをつけると同時に、その後に目下の関心事が続くことを示す。

後続する「目下の関心事」とは、既出話題であったり、現話題の関連話題であったりするが、それらの内容を展開・補完するなどして、談話構造上の次のステップに進むことを示す。

独話：フィラー化する「で」

「で」は、とくに独話においては、目下の話題・内容が展開しているときに、発話処理に運動し、区切りを示すことにより、処理を支援し、また処理のための心的な余裕を作るというフィラーとしての機能を持つ。このような「で」は、発話冒頭に頻出することがあるが、対話での基本的な機能を保持しており、連続的な内容の発話を形成処理中であることを示す。

（小出2008：38、一部改変）

* 岡山大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程4年

小出（2008）は、例（1）に見られる「で」の3回連続使用が、話の関連性を示す機能に加え、「発話の処理支援」および「心的な余裕を確保する」（p. 38）という重要な機能を果たすと分析している。

(1) で、参加学生数は学生が二百五十六名講師三十名。

で、環境は学内のインターネットおよびダイヤルアップと。

で、内容はですね授業の内容これは学生さんには内緒で、正規の授業の中で単位を認定する通常の授業の中で実施したんですけども（…）。（小出 2008：37、一部改変）

しかし、フィラーの認定基準については慎重な検討が必要である。大工原（2010：126）は、「[問をつなぐ]」「[言いよどむ]」といった印象だけでフィラーを認定するならば、フィラーの種類は膨大なものになるようと思われる」と警鐘を鳴らす。実際に、話し言葉においては、「やっぱ（り）」「だから」「で」など多種多様な表現が、文中に必要とも思えるほど頻繁に使用されることは珍しくないと指摘されている。また、加藤（2004：225）は、「ことばが出ていない《無言語の時間》を埋めるという働きは、すべての発話や単語が持つ」といふと指摘している。このため、単に「発話の処理支援」や「心的な余裕を確保する」という機能のみを根拠に「で」をフィラーと断定することの妥当性には疑問が残る。加えて、深川（2009）は文頭の「で」が音声的に短く、学習者にとって知覚されにくい点を指摘している。この音声的特徴を考慮すると、果たして知覚されにくいほどの短い発音で「心的な余裕」が効果的に生み出されるのか、という点も論点となろう。

中島（2011）は自然談話におけるフィラーを対象とした考察の中で、「で」をフィラーの一つとして取り上げ、会話における発話冒頭と発話中の両方に出現すると述べている。中島によれば、発話冒頭の「で」は、例（2）で示されるように、「発話権の維持」機能を持つ場合がある。

(2) で、そうゆう、ことでだいたいおおよそは、あの、フロッピー入稿を、しておりました。

で、えー遅れたものとか、ちょっとこちらで入力でき、できなかつたものだけ、手書きの原稿がいきますが、ほとんどが、えー、フロッピー入稿とゆうふうに考えていただいて、けっこうだと思います。（中島 2011：197）

次に、発話中に用いられる「で」は例（3）のように「ほら」と共起して「注意喚起」という機能を持つ。

(3) どうもねえ、で、ほら、工事で、ごちゃごちゃ、もう、やってたし。（中島 2011：208）

しかしながら、中島（2011）の研究においては、「で」をフィラーとして認定する具体的な基準については、解説がなされていない。実際の会話を観察すると、発話の冒頭や途中に「で」が出現する例は頻繁に見受けられるが、それら全てがフィラー的な用法であると断定することは困難である。この点を明らかにするため、次に『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』（I-JAS）から

収集した用例を検討する。

- (4) 脳に入るのをストップさせてしまって、だから右腕だけに寄生されちゃうんです（んーんーんー）、で¹な、かなか頭はもう人間で、こう右手だけ寄生虫に寄生されたみたいななんかいろいろ（JJJ03-I）

この例における「で」は、発話中に位置しているものの、文頭にあって先行文と後続文を接続している。このため、フィラーとして認定するよりも、寄生虫に関する情報を追加説明する接続詞として機能していると解釈するのが適切であろう。

百瀬（2018）は、インタビュー談話においてフィラー的に使用される「で」の出現率が、接続詞系フィラーの中で最も高いと指摘している。しかし、百瀬が示すその判断基準は、主として統語的な位置に依拠している。具体的には、以下のように示されている。

- (5) 〈接続詞かフィラーか〉

- ・「その時、雨が降ってきた。で、傘をさして、」(⑥)
- 上記文の「で」は文頭に置かれ接続詞として機能していると考えられるため、これを接続詞とする。
- ・「僕だって、で、それからいろいろあって、で、どうしようもなかったから。」(③)
- 上記文の「で」は文中に置かれて接続詞としてではなく発話をつなぐ形式として機能していると考えられるため、これをフィラーとする。（百瀬 2018：36）

百瀬（2018）が⑥の「で」を接続詞として判断したことは妥当であると考えられる。しかし、③の「で」を、「文中に置かれて接続詞としてではなく発話をつなぐ形式」であるという理由のみでフィラーと断定することには、根拠が不十分であると言わざるを得ない。会話においては、接続詞は談話標識として発話と発話をつなぐ機能を担うため、「発話をつなぐ」という機能だけでは、必ずしもフィラーであると結論づけることはできない。

これらの先行研究が示唆するように、「で」が接続詞として機能しているのか、あるいはフィラーとして機能しているのかを判別するための明確な基準を設定することは困難である。むしろ、両者の境界は連続的であり、その具体的な現れは文脈に大きく依存するため、単純な二分法で捉えることは適切ではないと考えられる。

したがって、研究アプローチとしては、「で」の使用を観察する際に、単に「時間を稼ぐ」や「言い淀み」といった機能のみでフィラーと即断するのではなく、まず統語的・談話的観点から明らかに接続詞としての機能を持たない「で」の用例を慎重に抽出し、その上でこれらの用例が持つ具体

¹ 収集した用例における下線と黒字の部分は筆者によるものである。以下も同様。

的な特徴を詳細に分析することが求められる。このような手続きを経ることにより、「で」の機能の連続性をより精緻に把握することが可能になると期待される。そして、この分析を通じて、接続詞とフィラーという二項対立的な捉え方ではなく、「で」が持つ多様な談話機能をより体系的に記述することを目指す。この観点から、本研究では、実際の会話資料において出現する「で」を観察し、その前後文脈における具体的な機能を分析する。

3. 使用したデータと「で」の出現位置

接続詞は典型的に文頭に位置し、先行する文と後続する文との論理的関係を明示する。これに対し、フィラーは発話中の出現位置が比較的自由であり、明確な接続関係の表示や文法的な機能を担わないとされる。したがって、「で」の多様な機能を詳細に分析する上では、会話文中における具体的な出現位置を観察することが不可欠である。この観点から、本節では、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS) より収集した日本語母語話者の会話データに含まれる216例の「で」を分析対象とする。分析に用いるデータの概要は以下の通りである。

データ	第一次データ
人数	15名 ²
タスク	対話 (I) (各30分程度)・ロールプレイ (RP)
発話総数	2818
「で」の回数	216

表1 15名日本語母語話者による「で」の使用回数

ID	使用回数	延べ回数
JJJ-01	8	8
JJJ-03	21	29
JJJ-09	8	37
JJJ-10	10	47
JJJ-11	15	62
JJJ-12	15	77
JJJ-14	18	95
JJJ-15	13	108
JJJ-17	9	117
JJJ-26	14	131
JJJ-30	23	154
JJJ-35	2	156
JJJ-37	24	180
JJJ-50	30	210
JJJ-57	6	216

² 被調査者の出身地が異なるが、調査においては共通語で会話が行われた。

表1に基づくと、調査対象となった15名の日本語母語話者全員が「で」を使用しているものの、その使用頻度には個人差が認められる。

次に、収集した216例の「で」を、その出現位置に基づいて「発話冒頭」および「発話途中」に分類した。今回の収集データにおいては、例(6)で示されるように、「で」が発話末尾に位置する用例が1例のみ確認された。しかし、当該用例の会話の流れを詳細に検討した結果、これは話者の発話意図によるものではなく、聞き手による「すみません」という割り込みによって話者の発話が中断されたために生じたものと判断される。したがって、この1例も発話途中の用例として分類することが妥当であると考える。

- (6) JJJ57-I-00480-K：あー、熱中したことですかー？〈はい〉えっとー、私のー、松山ケンイチさんの、〈はい〉ファンで〈へー〉、あの、テレビのドラマで、見てから〈うん〉、あのとっても大好きになって

JJJ57-I-00490-C：あそうですか

JJJ57-I-00500-K：あの、ぜひ一度お会いしたいと思って

JJJ57-I-00510-C：あ、そんなにですね

JJJ57-I-00520-K：はい、あの、エキストラ、に参加を、してみたんです

JJJ57-I-00530-C：そうなんですか

JJJ57-I-00540-K：はい、で

JJJ57-I-00550-C：すいません、それはドラマですか？(JJJ57-I)

以上の分類に基づき、本データにおける「で」の出現数は、発話冒頭が49例、発話途中が167例となった。

以下に、発話冒頭および発話途中に見られる「で」の具体的な用例を提示する。

- (7) JJJ01-I-00690-C：うい浮いてる感じですか

JJ01-I-00700-K：浮いてるんですよね

JJJ01-I-00710-C：へー、すごい、なんかイメージではありますけど実際見れることってねー

JJJ01-I-00720-K：{笑} そう、なんですよーなんか

JJJ01-I-00730-C：なかなか、うん

JJJ01-I-00740-K：でーなんか運が良くないと〈えーえー〉、せっかくそこまで行っても、見えない日も〈はーはーはー〉、あるらしくて〈あー〉、たまたまその（連体詞）日は良く見える日だったみたいです (JJJ01-I)

例(7)のようにターン交替時に現れる「で」を発話の冒頭と定義する。一方、例(8)のように話し手のターンの途中に現れる「で」を発話の途中と定義する。

(8) **JJJ37-I-00500-K** : え、熱中ですかー〈うん〉そうですね何でしょう（なんでしょ、う）、えー
熱中ーんー〈うん〉、熱中というほどではないんでしょう。が〈ええ〉ちょっと興味があってー

JJJ37-I-00510-C : あーはいどうぞ

JJJ37-I-00520-K : やってみたら面白かったというものですけれども〈はい〉あのーテレビで日本でもね、〈はい〉昔から『ウルトラマン』とか『仮面ライダー』とかヒーローいますけれどもね〈ええ〉あのが今あのー中国とか他(ほか)の国でもー〈はい〉日本からーあのスタッフが行ってー現地で、現地のヒーローを作ってるんですね〈ふーん〉で、そういうのがあるよってたまたま知り合いが教えてくれまして、〈はい〉で、どんなもんだろうかと思って、まああの今インターネットで今、ユー何(なに)、ユーチューブって言ってるでしょうかね〈はい、うん〉で、とかああいうのとかで今動画が見られますから〈ええ、ええ〉たまたまそれを見てみたら、まあ、向こうの母国語で話されてるのでー〈あー〉わからないんですけど、(JJJ37-I)

しかしながら、発話途中に現れる「で」は、発話冒頭の「で」のように常に文法的に一貫した位置に出現するとは限らない。例えば、例(8)においては「で」が3回出現しているが、そのうち2例は「作ってるんですね。で～」や「言ってるでしょうかね。で～」のように、統語的に完結した節の直後に位置している。残る1例は、「教えてくれまして、で～」のように、動詞のテ形に後続する形で観察される。このような出現位置の多様性を踏まえ、本研究では発話途中に現れる「で」を、その具体的な出現位置に基づいてさらに下位分類する。

表2「で」の出現位置

発話の冒頭		49	
		167	
発話の途中 ³	主な出現位置	テ・デ形	66
		統語的に完結した箇所	37
		感動詞・間投詞・応答詞	26
		が・に・と・からといった格助詞	10
		名詞	7
		け(れ)ど(も)・が	6
		ので(んで)	4

³ 発話の途中の出現位置については、「で」の前接要素を分析し、その特徴を整理した。

発話の途中 ³	その他	ずに	2
		たり	2
		し	2
		たら	1
		とか	1
		身に付け	1
		やっぱり	1
		みたいな	1

表2に示す通り、発話冒頭における「で」の用例は49例であり、これは発話総数（2818）の約1.7%に相当する。一方、発話途中の用例は167例と、発話総数の約5.9%を占めている。この結果から、「で」は発話の冒頭よりも途中でより頻繁に使用される傾向があると言える。さらに、発話途中の「で」に注目すると、動詞のテ形・デ形に後続する事例が最も多く、次いで統語的に完結した箇所の後、および感動詞・間投詞・応答詞の後に多く出現する傾向が確認された。

以下では、それぞれの出現位置における具体的な用例を提示する。

テ形・デ形の後

- (9) JJJ37-I-00520-K：やってみたら面白かったというものですけれども〈はい〉あのーテレビで日本でもね、〈はい〉昔から『ウルトラマン』とか『仮面ライダー』とかヒーローいますけれどもね〈ええ〉あれが今あのー中国とか他(ほか)の国でもー〈はい〉日本からーあのスタッフが行ってー現地で、現地のヒーローを作ってるんですね〈ふーん〉で、そういうのがあるよってたまたま知り合いが教えてくれまして、〈はい〉で、どんなもんだろうかと思って、まああの今インターネットで今、ユー何(なに)、ユーチューブって言ってるでしょうかね

(例 (8) の一部再掲)

感動詞・間投詞・応答詞の後

- (10) JJJ50-I-00040-K：えっとー、入間市、ですね
 JJJ50-I-00050-C：あ、そうですか、入間
 JJJ50-I-00060-K：入間ってー
 JJJ50-I-00070-C：からだと一時間ぐらいはかかりますよね？
 JJJ50-I-00080-K：そうですねあの、天気も良かったんで〈ええ〉、玉川上水から歩いて来ましたので
 JJJ50-I-00090-C：ああー、あそれはかなり
 JJJ50-I-00100-K：うん、で、に、二時間ぐらいかかるて {笑} (JJJ50-I)

- (11) JJJ12-I-00190-C : 手袋ですか 〈はい〉 まだあんまり、寒くないですけど
JJJ12-I-00200-K : あ、えーと、えーあー昨日誕生日だったんですけど、はい
JJJ12-I-00210-C : あ、おめでとうございます |笑|
JJJ12-I-00220-K : はい、あ、えーと、でえーと、で、えーと手袋オーダー手袋のお店があつたので〈へー〉えーとオーダー手袋のお店に行って手の大きさを測って〈はい〉もらって 〈はい〉、えとま、まあちょうど、ちょうど自分の誕生日だったので 〈はい〉えーと作ってもらってできあがるのがちょうど十一月ぐらいなのでまあ今から頼めば 〈へー〉ちょうどいいかなと、はい (JJJ12-I)
が・に・と・からといった格助詞
- (12) JJJ35-I-02220-K : 今考えると怖いんですけど、それが慣れてしまって、〈うんー〉 ああ。すごい学校に来たんだなとゆうか 〈うーんー〉 まあちょうどそういう荒れてた時期だったのか今じゃもうまったくないんですけどそういうのは
JJJ35-I-02230-C : ああーそうなんですか
JJJ35-I-02240-K : まったくないんですけども 〈はい〉 その（連体詞）時は、ああすごいなあというかそれに慣れてしまつたってゆうのが 〈はあ〉 で毎なんかもう非常ベルは鳴るわあの (JJJ35-I)
- (13) JJJ30-I-01240-K : 盆地ですかねー
JJJ30-I-01250-C : あ、そうですかー
JJJ30-I-01260-K : でもすごい住みやすくて 〈へー〉 都内にも出れますし 〈うんうんうん〉、一本で、で横浜に、も行けますし 〈あー〉 すごく、便利です (JJJ30-I)
- (14) JJJ30-I-01820-K : |笑| で、えーと、司会の方（かた）が 〈はい〉 ジャあ最後の番号を、言いますみたいな感じで 〈うんうん〉 彼女が当たって 〈はい〉 でステージに、来て 〈うんうんうん〉 でその（連体詞）時に彼が、あのサプライズで指輪を持ってきて、パカッと 〈おー〉 でその（連体詞）時に、私はピアノの準備をしていてあともう一人歌う人がいたんですけど 〈へー〉 でそこで、あのー、スマップの 〈うん〉『らいおんハート』という、ほんとに、ラブソングを 〈はい〉 歌って、最後のサビのところは 〈はい〉 スクリーンに、歌詞を、出して 〈うーん〉 で会場にいる全員が合唱するという (JJJ30-I)
- (15) JJJ09-I-01030-C : し始める？ 〈はい〉 えっ変装してるんですか？
JJJ09-I-01040-K : はいかつらと 〈はい〉 眼鏡と一、〈うんうん〉 で制服かなんかを着てるかな、〈はーい〉 はーい学生っぽくして 〈えーえー〉 現れてー、〈へー〉 はっちゃかめっちゃかー（しちゃかめっちゃか） (JJJ09-I)

- (16) **JJJ30-I-00950-C** : 面白いですねー、へーどんなところがアニメになっちゃうんですか?
JJJ30-I-00960-K : なんか、その、相葉君、主人公の相葉君の、が、こう、漫画を書くのが
好きで小さい頃（ころ）から〈はー〉、でその（連体詞）漫画が、アニメ
としてあの、実際に出てくるんですね〈ふーん〉、で相葉君に、アドバイ
スをしたりとか
(JJJ30-I)

名詞

- (17) **JJJ26-I-02700-K** : で、家賃、家賃も一万円で貸してくれるんですがー、〈ええ、ええ、ええ〉
ただ条件が三つありますー、〈はい〉一つはー、あのー、もう日本屈指
の豪雪地帯なんでー、〈うんうん〉あの近くのお年寄りとかーの、雪かき
とかを手伝える方（かた）、〈うんうんうんうん、はい〉で、二つ目がー、
一番近いお店が車で一時間だけど、それが大丈夫な方（かた）、〈はい〉で、
この（連体詞）二つはー、私は、ん、まあ住む以上はクリアできなくは
ないと思うんですがー、問題がもう一つ目 (JJJ30-I)

け（れ）ど（も）・が

- (18) **JJJ37-I-02280-K** : 教育関係というと大げさなんですが〈んー〉私は先生にはなれませんけ
れどもー〈ええ〉教育関係のところー施設で働きたいっていうのはあり
ますですね〈ふーん〉まあ学校卒業してー就職した時がまあ〈はい〉民
間の一そういう企業で〈あー〉まあ主に接客とかをやってきたんですけどもー〈う
ん〉ある時期ちょっとまあ仕事をーまあ体壊してたのもあったんですけど
れども〈うん〉でちょっとその（連体詞）仕事を辞めましてー〈はい〉
でまあいろいろとこう、今ね派遣でやったり契約社員とかいろいろあり
ますけれども〈うん〉そういうお仕事の中でーたまたまね、あるまあ大
学さんの図書館とか〈はい〉のまあお仕事とかまああとは大学院とかの
こう事務とかありますけども (JJJ37-I)

ので（んで）

- (19) **JJJ14-I-00490-C** : そういう飲み物が好きだからかなと思って
JJJ14-I-00500-K : いや、なんかたまたまタイミングが良くてたし（私）そん時（その時）ちょ
うどカナダにホームステイにしに行ってたんです（いってたんです）け
ど〈あ〉その（連体詞）前にアルバイトを辞めて〈はい〉、行った（いった）
ので〈うんうん〉から（だから）探さないとなと思って〈ああー〉で探
してたらちょうど、あったのでコーヒー、カフェ、で一回働いてみた
いなっていうこともあったので〈うんうんうん〉はい (JJJ14-I)

その他

- (20) JJJ03-I-01280-K : でな、かなか頭はもう人間で、こう右手だけ寄生虫に寄生されたみたい
ななんかいろいろ、特殊な能力を身に付け、でなんか手が伸びるだとか、
変形するだとか 〈んーんーんーんー〉 (JJJ03-I)
- (21) JJJ03-I-01280-K : でなんか手が伸びるだとか、変形するだとかで、えーっ
と、その人間側としてはその寄生虫ってのは、まあ、まあ、いわまあ害
虫みたいな物で、〈ん、ん、ん〉 まあ殺してしまえばいいんじゃないかと
いう話、になるんですけど (JJJ03-I)
- (22) JJJ09-I-02140-K : 記念日プランは一ちょっとしたものなんですけどー 〈えー〉 旅館でーワ
インが一部屋にーおい 〈あー〉 置かれていたりーケーキ
JJJ09-I-02150-C : すごいすごい、すごいじゃないですかー
JJJ09-I-02160-K : ちょっとしたのが置かれていたりー、で食事の時には二人ツーショッ
トの写真を 〈はー〉 摄ってくれたりとかー (JJJ03-I)
- (23) JJJ10-I-00640-K : そしたらー、九時間は歌えたんですけどもー
JJJ10-I-00650-C : 九時間ですか？
JJJ10-I-00660-K : はい、でもなんか違う、〈うーん〉 なんかおしゃべりがないとつまらない〈は
いー〉 これはやっぽり、で相手が歌ってる間はに休憩もできるから
(JJJ10-I)
- (24) JJJ26-I-01820-K : そのー、宇宙飛行士、にかかるいろんな負荷を、調べる実験というのに
一ヶ月参加したんですが、〈へえー〉 その（連体詞）時はー、もう基本的
には三週間ベッドから置き上がりがれずに、で、しかも頭を、マイナス六度、
平行より傾けてー、頭のほうが下ん（に）なる状態でずっと三週間いる
んでー、〈えー〉 これ、頭に血が上って、〈はい〉 なんか血栓とかできな
いのか心配したんですけど、(JJJ26-I)
- (25) JJJ37-I-02360-K : 私の住んでいるまあ、埼玉のほうほぼ群馬なんですがー 〈はい〉 あのー
電車やバスはあるんですね、あるんですけど車を運転できないと何も（な
にも） できないですね 〈んー〉 もう買い物に行くにしてみても 〈はい〉
遊びに行くにしてみても車がないと話にならないですし 〈うんうん〉 で
その（連体詞）点あの都内ーまあこの（連体詞）辺りでしたらーまあだ
いたいもう一普通に一歩いていけばもうお店が、まあ駅前だけでもたく
さんありますよね (JJJ37-I)
- (26) JJJ14-I-02220-K : はは早く結婚しろみたいな感じで言われてて {笑} {咳} ちょっとださかつ
たです

JJJ14-I-02230-C：ああそうなんですか〈笑〉、あんまり興味がない感じ？

JJJ14-I-02240-K：え何（なん）か行きつけの美容師さんが（うん）もう行きつけになっちゃつたから、それ以来もう他（ほか）の美容院に行けないみたいな、で毎回同じ髪型にされてって感じでした（JJJ14-I）

(27) JJJ10-I-00890-C：『赤毛のアン』のアニメですか？

JJJ10-I-00900-K：そうですアニメで〈へー〉子供たちと見るだったら、〈はい〉で一テレビ
普段見るテレビはー〈うんうん〉もう大河ドラマとか時代物が多いので
(JJJ10-I)

4. 「で」は接続詞かフィラーか？

市川（1978）、日本語記述文法研究会（2009）、石黒（2008）などによれば、接続詞は前後の文を接続し、その論理的関係を示す機能を担う品詞であるとされている。

一方、フィラーに関しては、研究者間で多様な見解が提示されている。まず、Schiffrin（1987：31-32）は、"oh" "well" "and" "but" "or" "so" "because" "now" "then" "I mean" "y'know"といった語句を談話標識（Discourse markers）の一種と捉え、これらを順序依存要素（Sequentially dependent elements）と定義している。一部の談話標識、例えば"y'know" "I mean" "oh" "like"は統語構造から独立した特性を有し、その出現位置には相対的な自由度がある。Schiffrin（1987）が論じた"discourse markers"と本研究で扱うフィラーは必ずしも同一ではない。しかし重要なのは、その出現位置の自由度、あるいは標識を文頭から取り除いても文の構造に影響がない（Removal of a marker from its sentence initial position, in other words, leaves the sentence structure intact.）という点である。また、野村（1996：93）はフィラーを「本来の語彙的な意味から離れて用いられ、それを削除しても発話全体の命題的な意味が変わらないような語句」と定義している。山根（2002：49）は、「それ自身命題を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない、発話の一部を埋めることば」と規定する。これらの定義を踏まえ、中島（2011：179）はフィラーを「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの」と定義している。これらの先行研究から、フィラーの主要な特徴として、「出現位置の相対的自由性」「本来の語彙的な意味の希薄化」「意味的独立性の欠如」「削除可能性」といった点が抽出される。これらの知見を総合的に考慮し、本研究ではフィラーを以下のように規定する。

(28) それ自身命題を持たず、他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たず、談話構成上の機能も持たない、発話の一部を埋めることばであり、削除しても文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの

接続詞であれ、フィラーであれ、「で」は談話標識の一種として捉えることが可能であり、談話

標識は一般に会話の構造を明示し、談話の流れを形成する機能を持つ。そこで本研究では、それらの定義を踏まえ、談話標識研究の枠組みから「で」の機能を捉え直していきたい。

4. 1 会話における「で」の用法

本研究では「で」の用法を「単純な接続詞的用法」「談話構造へ貢献する用法」「フィラー的用法」の三つに分類するが、この分類は以下の理論的根拠に基づいている：

単純な接続詞的用法：主に隣接する文や節を接続し、命題間の論理関係（時間的継起、因果関係など）を明示する。

談話構造へ貢献する用法：接続の機能が後景になり、その代わりに「談話操作標識」(Discourse operators) の「連続的構造」(Sequential structure)⁴ に相当し、談話の階層構造を示したり、話題の転換や展開を制御したりする機能が前景になる。

フィラー的用法：接続の機能や談話構造上の機能がほとんどなく、発話の処理を支援や発話権の維持など、談話の流暢性に関わる機能を担う⁵。

⁴ Redeker (1991) は、「談話標識」(Discourse markers) を「談話操作標識」(Discourse operators) として再定義し、談話の一貫性を保つ主要構成要素として「概念的構造」(Ideational structure)、「修辞構造」(Rhetorical structure)、「連続構造」(Sequential structure) という三つの要素を提示した。

「概念的構造」(Ideational structure) : "Two discourse units are ideationally related if their utterance in the given context entails the speaker's commitment to the existence of that relation in the world the discourse describes. Examples are temporal sequence, elaboration, cause, reason, consequence, and so forth." (p.1168) (二つの談話単位は、与えられた文脈でそれらが発話されると、話し手がその談話が描写する世界においてその関係が存在することに対するコミットメントを含意する場合、観念的に関連していると言える。例としては、時間的連続性、精緻化、原因、理由、結果などがある。)

「修辞構造」(Rhetorical structure) : "Two discourse units are considered to be rhetorically related if the strongest relation is not between the propositions expressed in the two units but between the illocutionary intentions they convey." (p.1168) (二つの談話単位は、最も強い関係性が二つの単位で表現された命題間ではなく、それらが伝える発話意図間にある場合に、修辞的に関連していると考えられる。)

「連続構造」(Sequential structure) : "Sequential transitions are paratactic or hypotactic relations between ideationally and rhetorically only loosely related adjacent discourse segments. A paratactic sequential relation is a transition between issues or topics that either follows a preplanned list or is locally occasioned, as for instance in conversation. Hypotactic sequential relations are those leading into or out of a commentary, correction, paraphrase, aside, digression, or interruption segment." (p.1168) (連続的推移は、観念的および修辞的に緩やかな関連性を持つ隣接する談話セグメント間における並列的または従属的関係と定義される。並列的連続関係とは、事前に計画されたリストに従うか、あるいは会話などにおいて局所的に生起する問題やトピック間の推移を指す。一方、従属的連続関係は、注釈、訂正、言い換え、傍論、逸脱、または中断セグメントへの導入もしくはそこからの離脱を導く関係性である。)

本研究の「で」は会話においては、出来事や物語を説明するとき、主に話題の転換や展開を制御したり、談話の階層構造を示したりする機能を持っている。このような特徴は、「連続構造」(Sequential structure) には話題転換の提示や、談話の流れの中で異なる視点への移行、注釈、解説、訂正、言い換えなどの特徴に合致している。

⁵ 「で」は会話における用法は連続的なスペクトラムを成しており、示された三つは典型的な段階に過ぎず、その間にも様々な中間的な用法が存在することが否定できない。

この分類に従い、3節で各位置に現れる「で」を検討した結果、単純な接続詞として用いられる「で」はほぼ見られず、フィラー的な用法として使われる「で」も少ない。最も多く観察されたのは談話構造に貢献する「で」である。また、「で」は単一の用法ではなく、複合的な用法を同時に持つケースが圧倒的に多いことが観察される。

まず、最も多く観察された談話構造に貢献する用法の用例を見てみよう。この用法は、今回のデータにおいては、一連の出来事や物語を説明する文脈でよく使用されている。たとえば、例（29）、例（30）である。

- (29) JJJJ37-I-00770-C：あーそうなんですかー、その（連体詞）『ペイマックス（映画名）』って
いうのはーえっとどんなストーリーなんですか

JJJ37-I-00780-K：あ、あのーお兄さん、まあ主人公の男の子がいてー〈はい〉その（連体詞）
お兄さんが作った医療用のロボットっていうのがいるんですね〈あーは
い〉でーその（連体詞）一医療用のロボットを、とこうー仲良くなっ
てですね〈うんうんうん〉で、まあお兄さんがちょっと事故で亡くなっ
てしまうんですけど (JJJ37-I)

例（29）では、一つ目の「で」は文が統語的に完結した後（「いるんですね」で終わる文）、聞き手の相槌（「あーはい」）を受けた後に出現している。局所的に見ると、「で」は指示詞「その」と共起しており、「お兄さんが作った医療用のロボットっていうのがいるんですね」という先行文と「その（連体詞）一医療用のロボットを、とこうー仲良くなってですね」という後続文を接続している。「ロボットがいる」→「仲良くなった」という継起的な関係を示していると解釈できる。これに対して、談話の構造においては、この「で」は後続する「医療用ロボット」という要素を焦点化し、その詳細説明への移行を示している。「で」の母音の引き延ばしによって話者が発話計画のための時間を確保している点も注目される。

二つ目の「で」も統語的に完結した後（「なりました」で終わる文）に現れている。局所的には「その（連体詞）一医療用のロボットを、とこうー仲良くなってですね」という先行文と「まあお兄さんがちょっと事故で亡くなってしまうんですけど」という後続文を繋いでいる。「仲良くなる」→「お兄さんが亡くなる」という時間的順序を示している。談話構造には物語の重要な転換点（主要キャラクターの死）という構造的境界を示している。

上記の二つの「で」は統語的に完結した箇所の後に出現し、前後の文を繋げながら、連続使用によって話し手が計画した順序（主人公がいる→お兄さんが作ったロボットがある→二人仲良くしている→お兄さんが亡くなった）に従って話題を展開していくという特徴を持つ。このような「で」は、接続詞としての役割を担いながら同時に談話を構成する機能も有しており、まさに接続詞的用法と談話構造へ貢献する用法の複合的な性質を示している。

次の用例（30）も同様に分析できる。三つの「で」はいずれも統語的に完結した文末の後に出現しており、3回の連続使用によって物語が段階的に展開されている。これによって、アニメ映画『アナと雪の女王』のストーリー説明において複雑な物語展開が聞き手にとって理解しやすい形で構造化されている。

- (30) JJJ12-I-00980-K：ア、アナ（登場人物名）の命が危なくなったんだけれども、えー国王、
がなんだっけトロール、トロールの所に〈うんうん〉連れていって治してもらいました、で、えー二人は育っていく途中で、えーご両親国王と、
えーとお妃さんが、えー船の事故で亡くなりましたでその後（そのあと）、
エルサ（登場人物名）がにじゅ、二十歳（にじゅっさい）だかな（だつたかな）二十歳（にじゅっさい）大人になった時、えーた、戴冠式、じゅ、
女王、女王になるべく戴冠式、戴冠式を開くことになりました、で戴冠式の日にアナ（登場人物名）は〈うん〉えー外から来た王子、と恋に落ちて（JJJ12-I）

一方、テ・デ形の後に出現した「で」は接続詞的用法というより、主に話し手が物語や出来事を構造的に展開していく標識となっている。

- (31) JJJ50-I-02600-K：そうですねー、あの、ちょうどよ、四年生の時に、〈はーい〉若い一女性
の先生が新任で来て〈えーえーえー〉、みんなで憧れましたねその（連体詞）
先生 |笑|、うん

JJJ50-I-02610-C：はー、それはこう授業がいいとかそういうあれではなく、こうやっぱり

JJJ50-I-02620-K：いやもうただただ、いやあの、

JJJ50-I-02630-C：アイドル的存在

JJJ50-I-02640-K：あの、あの（連体詞）頃にしたらやっぱすごいきれい、〈ふーん〉で、と
にかく若くて〈えーえーえーえーえーえー〉、で、なんか途中で、入院さ
れて〈はい〉、でみんなでー、お見舞い、行きましたねー〈ふーん〉、そ
んだけ人気のあった先生で〈はーい〉、でかわいそうなんはその（連体詞）一
代わりに来た先生が〈はい〉、やっぱり、き、嫌われましたねー（JJJ50-I）

例（31）では、話し手が4つの「で」を用いて、新任の先生が人気があったが入院し、そのかわりにきた先生が嫌われたという一連の出来事を説明している。この説明は、単純に時間の順序で展開しているのではなく、話し手の主観によるものである。たとえば、「すごいきれい、とにかく若く」、「かわいそう」などの評価的情報も提供されている。このような一連の出来事の説明では、テ・デ形が基本的な接続機能を果たしているため、その後に現れる「で」は談話を構造的に展開していく標識として働いていると考えられる。つまり、「で」は文と文をつなげるだけでなく、より大きな

談話単位を組織化することができる。

今回のデータにおいては、テ・デ形の後に「で」が出現している用例が最も多く（66例）確認された。このことから、「で」は会話における従来の接続詞としての機能を超えて、より広範囲で機能する談話標識の一種になっていると考えられる。

また、発話の冒頭または冒頭の感動詞の後に出現する「で」も接続の機能より、談話構造上に働きをしている。

(32) **JJJ01-I-00040-K**：今日はえっと、え電車乗つ、て

JJJ01-I-00050-C：電車乗って、はい

JJJ01-I-00060-K：でまあ、あの、立川からある、あ、歩い、ても来れるんですけど |笑| 〈えーえーえー〉、ちょっと大変なので (JJJ01-I)

(33) **JJJ50-I-00040-K**：えっとー、入間市、ですね

JJJ50-I-00050-C：あ、そうですか、入間

JJJ50-I-00060-K：入間ってー

JJJ50-I-00070-C：からだと一時間ぐらいはかかりますよね？

JJJ50-I-00080-K：そうですねあの、天気も良かったんで 〈ええ〉、玉川上水から歩いて来ましたので

JJJ50-I-00090-C：ああー、あそれはかなり

JJJ50-I-00100-K：うん、で、に、二時間ぐらいかかるって |笑| (JJJ50-I)

用例（32）では、「で」は文の冒頭に現れているため、前後文脈を接続するのではなく、相手の確認（「電車乗って、はい」）を受けて「今日はえっと、え電車乗つ、て」という前のターンとの関連をつけながら、さらに詳細な状況説明（歩いてくることも可能だが大変）を導入している。このため、「で」は談話構造に貢献する用法とみなせる。同様に、用例（33）では、「で」は「うん」という相手への応答の後に現れているが、前後文脈の論理関係を示すというより、「そうですねあの、天気も良かったんで 〈ええ〉、玉川上水から歩いて来ましたので」というターンの続きを示している。

このように、発話冒頭の「で」および冒頭の感動詞の後の「で」は、単なる接続詞としての働きの機能を超えて、談話標識として働き、談話の構造に貢献していると言える。

続いて、フィラー的用法として認めてよい用例を検討する。

(34) **JJJ12-I-00190-C**：手袋ですか 〈はい〉 まだあんまり、寒くないですけど

JJJ12-I-00200-K：あ、えーと、えーあー昨日誕生日だったんですけど、はい

JJJ12-I-00210-C：あ、おめでとうございます |笑|

JJJ12-I-00220-K：はい、あ、えーと、でえーと、で、えーと手袋オーダー手袋のお店があっ

たので〈へー〉えーとオーダー手袋のお店に行って手の大きさを測って〈はい〉もらって〈はい〉、えとま、まあちょうど、ちょうど自分の誕生日だったので〈はい〉えーと作ってもらってできあがるのがちょうど十一月ぐらいなのでまあ今から頼めば〈へー〉ちょうどいいかなと、はい (JJJ12-I)

- (35) JJJ11-I-00530-C : へーこれまで読んだ本の中で、一番こう、好きな本とか

JJJ11-I-00540-K : 一番好きな本

JJJ11-I-00550-C : 印象に残ってる本とかありますか？

JJJ11-I-00560-K : すごいマイナーなんんですけども〈うん〉西尾維新さんっていう〈ふーん〉作者さんが書いている、ちょっと不思議な、お話が〈ふーん〉それもちょっとミステリー、で、なんですけど〈うん〉現実味があんまりない、こう、なんていうんでしよう〈ふーん〉なんだ、なんかすごい頭いい人が出てきたり〈うん〉一癖も二癖もあるような人物が〈うん〉出てきたり〈ふーん〉するような (JJJ11-I)

- (36) JJJ30-I-01240-K : 盆地ですかねー

JJJ30-I-01250-C : あ、そうですかー

JJJ30-I-01260-K : でもすごい住みやすくて〈へー〉都内にも出れますし〈うんうんうん〉、一本で、で横浜に、も行けますし〈あー〉すごく、便利です (JJJ30-I)

例 (34) ~ (36) は「で」がフィラー的用法とみなせる用例である。用例 (34) では、聞き手からの「あ、おめでとうございます」というお祝いによって話の計画が中断されたため、「はい」という応答の後に言い淀みが現れた。その後、「でえーと、で、えーと」という連続使用によって、話し手が「えーと」で「心的操作」⁶を行うと同時に、発話権を維持しながら、「手袋オーダー手袋のお店」という話題を持ち出すための時間を確保している。ここでの「で」は接続関係や談話構造の構築との関係が薄く、フィラーに近い用法を持っている。

一方、用例 (35) と (36) では、「で」は述語の前および格助詞の後に出現しており、接続詞としての通常の統語的位置（文頭や文間など）から逸脱している。「それもちょっとミステリー」「一本で」の後にポーズ（コンマ）があり、話し手の情報伝達が一旦区切れた後に「で」が出現している。これは話し手が発話権を維持しながら言葉の処理を支援するフィラー的用法であるといえる。

収集したデータには単純な接続詞の用法が見られないが、そのような用法が存在しないとは言えない。たとえば、次のような会話例が考えられる。

⁶ 田窪・定延 (1995: 78) では、「ええと」の基本的用法は心的操作（検索・計算）のための「演算領域確保」ことである。「[「ええと」を発話することによって、話し手はこの演算領域確保操作を通じて、目的となっている当該の検索・計算操作を明確化でき、支援できる。」

- (37) - 昨日は頭が痛かった。で、学校に行かなかった。
 - それは大変だったね。今日はもう大丈夫？（作例）

例(37)では、「で」は文と文の間に位置しており、「頭が痛い」→「学校に行かなかった」という明確な因果関係がある。話し手が意識的に「で」を使用していると言える。この「で」は「そのため」や「それゆえ」に近い機能を果たしている。この用例は、「で」の最も基本的な接続詞用法を示している。この場合の「で」は論理的な機能に特化しており、談話標識としての拡張機能やフィラーとしての性質はほとんど見られない。

本研究で収集したデータに、このような用例が観察されなかった理由は、主に以下の2点が考えられる。一つ目は、自然会話は事前に準備された原稿に基づくものではなく、リアルタイムで構築されるという特性を持つ。すなわち、話し手は発話と同時に次の内容を構想し、また聞き手の反応に応じて談話の方向性を調整する必要がある。この過程では、言い直しや補足といった現象も頻繁に生じる。このような即時的な談話構築が求められる状況においては、単に文と文を論理的に接続する機能だけでは不十分となり、より多様な談話操作を可能にする要素が求められる。二つ目は、自然会話における「で」は、すでに単なる接続詞としての枠組みを超え、談話全体の構造へ貢献することに寄与する、より抽象的な機能を持つ表現へと変化している可能性が考えられる。

4. 2まとめ

以上の分析によれば、「で」は会話において次のような特徴が見られる。

表3「で」の会話における用法

項目	接続範囲	出現位置	主な機能	情報の流れ	例文
単純な接続詞的用法	主に隣接する文や節	統語的完結した箇所の後、一般的単独で使用される	時間的・論理的接続	時間順・因果順に従う	「昨日は頭が痛かった。 <u>で</u> 、学校に行かなかった。」（作例）
談話構造へ貢献する用法	より大きな談話単位・話題全体	主にテ・デ形の後、かつ連続使用が特徴である発話の冒頭	談話構造の操作	客観的な事実を述べる場合でも、それらをどのような順序で提示するかは、話し手の主観的な意図や判断によって構成することが可能	「とにかく若くて、 <u>で</u> 、なんか途中で、入院されて、 <u>で</u> みんなでー、 <u>お</u> 見舞い、行きましたねー、そんだけ人気のあった先生で、 <u>で</u> かわいそうなんはその一代わりに来た先生が、やっぱり、き、嫌われましたねー」（JJJ50-I）

項目	接続範囲	出現位置	主な機能	情報の流れ	例文
フィラー的用法	基本的に接続機能は弱い・消失 談話構成上の機能はない	通常の統語的位置（文頭や文間など）から逸脱し、文の内部構造に現れる（名詞と述部の間、並列構造の途中など）	言葉の処理の支援・発話権の維持など	—	「はい、あ、えーと、 <u>で</u> えーと、 <u>で</u> 、えーと手袋オーダー手袋のお店が」 (JJ12-I)

この表から、「で」の機能拡張の一側面をうかがい知ることができる。すなわち、「で」は接続詞としての基本的な機能を保持しつつも、より広範な談話標識として機能するに至ったと考えられる。具体的には、「で」には文間から文の内部構造へと出現位置が変化するとともに、その機能も命題間の論理関係表示から、談話の構造、さらには言葉の処理支援や発話権維持といったフィラー的なものへと拡張していることが観察される。

5. 結論

本研究では、従来接続詞として扱われてきた「で」がフィラーとしての用法も獲得したという先行研究の指摘に着目した。しかし、これらの研究では、どのような場合に「で」が接続詞として機能し、どのような場合にフィラーとして機能するのか、その判別基準が明確に示されていなかった。そこで、本稿では会話における「で」に焦点を当て、その出現位置と具体的な用法を検討した。その結果、本分析の範囲内では、「で」が単純な接続詞として用いられる例はほとんど確認されず、明確にフィラー的と断定できる用法も少数に留まることが明らかになった。多くの場合、「で」は談話構造の構築に貢献する多様な機能を果たしていた。この点は、小出（2008）が述べた「既出話題であったり、現話題の関連話題であったりするが、それらの内容を展開・補完するなどして、談話構造上の次のステップに進むことを示す」という主張と整合的である。

ただし、小出（2008）は会話における「で」のフィラー的用法を積極的に認めてはいない。これに対し、本研究の考察では、「で」が通常の文間の位置から逸脱し、名詞と述部の間のような文の内部構造に出現する事例も確認された。このような文脈においては、「で」の接続詞としての機能や談話構造上の機能は相対的に弱まり、言葉の処理を支援したり発話権を維持したりするといったフィラー的な用法として解釈することが可能である。重要なのは、現時点で「で」を一律にフィラーとして認定するのではなく、会話の具体的な文脈によってはフィラーとして解釈されうる場合があることを認識することである。これは、「で」が談話標識として機能拡張を遂げている過程の一環として捉えることができるだろう。

最後に、本研究の調査においては、単純な接続詞的用法とフィラー的用法が少ないという点はさらにデータを収集して詳細に検討する必要がある。

<参考文献>

- 石黒圭 (2008) 『文章は接続詞で決まる』 光文社新書
- 市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』 教育出版
- 加藤重広 (2004) 『シリーズ・日本語のしくみを探る6 日本語語用論のしくみ』 研究社
- 小出慶一 (2008) 「発話行動における「で」の役割：「で」のフィラー化をめぐって」『埼玉大学紀要 (教養学部)』 44 (2) 埼玉大学 pp. 27-40
- 高橋淑郎 (2001) 「談話における接続詞「で」の機能」『國語學』 52 (3) 日本語学会 pp. 98-99
- 田窪行則・定延利之 (1995) 「談話における心的・操作モニター機構一心的操作標識「ええと」と「あの(ー)」」『言語研究』 108 日本言語学会 pp. 74-93
- 大工原勇人 (2010) 「日本語教育におけるフィラーの指導のための基礎的研究—フィラーの定義と個々の形式の使い分けについて—」博士論文神戸大学大学院国際文化学研究科グローバル文化専攻
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法—疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞』 おうふう出版
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法7第12部談話 第13部待遇表現』 くろしお出版
- 野村美穂子 (1996) 「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語—「フィラー」に注目して—」『教育研究所紀要』 5 文教大学教育研究所 pp. 91-99
- 深川美帆 (2009) 「日本語学習者の談話における接続表現の習得研究」博士論文名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 百瀬みのり (2018) 「指示詞系フィラーの出現位置—インタビュー談話における—」『待兼山論叢・文学篇』 52 大阪大学阪大学大学院人文学研究科 pp. 55-76
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くろしお出版
- 劉洋 (2023) 「会話における「で」の文脈展開機能」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 56 岡山大学大学院社会文化科学研究科 pp. 89-106

<英文>

Redeker, G. (1991). Linguistic markers of discourse structure. *Linguistics*, 29(6), 1139-1172.

Schiffrin, D. (1987). Discourse markers. Cambridge : Cambridge University Press.

<コーパス>

国立国語研究所 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』 (I-JAS) 中納言 2.7.2 データバージ
2025. 06

